



住所 〒547-0013 大阪市平野区長吉長原東 3-10-9

連絡先 ☎ 06-6708-0105

☎ 06-6799-0401

校長 市場 達朗

開校 昭和 45 年

URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751732>

運営に関する計画

【現状と課題】

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校の学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」であり、めざす子どもの姿は、「自分も人も大切にしている子ども」「自分で考え、行動する子ども」「自分からチャレンジする子ども」である。

こうした「めざす子どもの姿」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する」ことである。「自己肯定感」や「自己有用感」をもつことはとても大切な課題である。「授業を開く」や「地域に開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

運営に関する計画

【中期目標】

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。
- 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を35%以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について最も肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 令和7年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 令和7年度の教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。
- 令和7年度末の学校アンケート（サポーター）において「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の項目について、肯定的に回答する割合を95%以上にする。
- 令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

令和7年度「みんながつくる みんなの学校 長原小」の教育

<大阪府教育振興基本計画（4年間 R4～R7）の最重要目標>

1「安全・安心な教育の推進」 2「未来を切り拓く学力・体力の向上」 3「学びを支える教育環境の充実」

学校教育目標 子どもも大人もいきいきしている学校

キーワード「笑顔」で「元気」に「楽しむ」

子どもに育みたい「3つの力」

自分も人も大切にできる力

・自分の思っていることを素直に言うことができる。
・人にやさしく、思いやりを持って、接することができる。

自分で考えて、行動する力

・どんな時でも、自分ならどうするかを考えることができる。
・自分から進んで、見たり、聞いたり、話したりすることができる。

自分からチャレンジする力

・失敗をおそれずに、チャレンジすることを楽しむことができる。
・新しいことや、好きなことにチャレンジすることができる。

めざす大人の姿

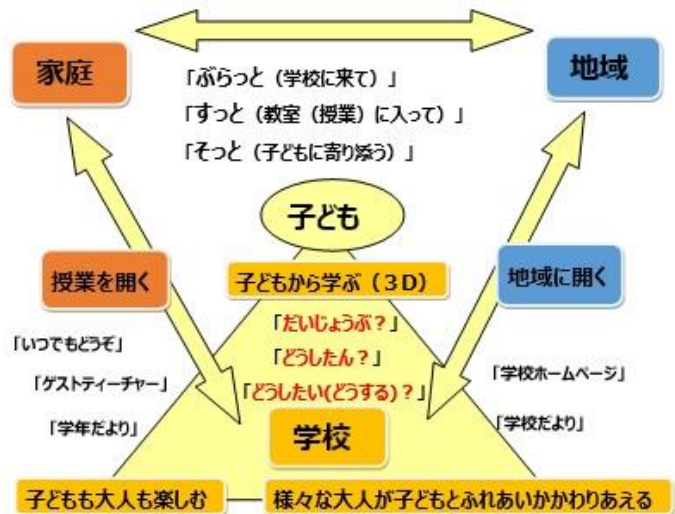
子どもから学ぶ大人・・・「3つの力」で子どもを受け止め、信じて任せる大人

すべての子どもを見守る大人・・・子どもを多方面から見つめ、違いを認め合える大人

できないことは人の力を活用する大人・・・何事も抱え込まず、チームで動く大人

めざす学校の姿

学校・家庭・地域がひとつになって「自己肯定感」をもつ子どもを育てる教育活動を推進する。



R6年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	平均正答率(%)
61	55	

●結果と概要／

・国語は平均正答率61%で、大阪市平均より約5%低い。話すこと・聞くこと・書くこと・読むことともに少しずつ大阪市平均を下回っている。それでも、昨年までの市学力調査の結果と比べると伸びている。

・算数については、平均正答率55%で大阪市平均より約7%低い。特に「変化と関係」の領域については、約11%低かった。他の領域については、大阪市平均より大幅には離れていない。また、昨年までの市学力調査結果でも、「変化と関係」の領域が市平均より低く、特に「比例や割合」について課題がある。

●取組の成果と課題／

[国語] 言語力や論理的思考を高めることをめざし、自分の考えを持ち、意見を述べる、書く、まとめる活動を継続して行った。それぞれに成果はあるが、平均正答率が大阪市平均より下回っているため、引き続き基礎基本の定着に取り組んでいく。また、異年齢グループで児童朝会時にサークルをつくって、「哲学対話」をしたり、学級でサークル対話をしたり、話し合い活動に重点的に取り組んでいったりしたこと、学習に対する意欲や「話すこと聞くこと」の学力は高くなってきている。

[算数] 「変化と関係」の領域の設問の正答率が特に低く、思考力・判断力・表現力に課題がある。単元によって「自由進度学習」の取り組みを行うことによって、主体的に意欲的に学習に取り組むことができるようになってきている。「比例と割合」の問題について重点的に取り組んでいく必要がある。

R6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点(点)
男子	14.60	16.25	31.38	35.00	43.38	9.74	138.69	21.94	48.33
女子	13.40	14.70	37.70	37.80	30.10	10.31	139.90	15.10	49.90

●結果と概要／

男女ともに、ソフトボール投げにおいて、大阪市・全国平均の記録を上回った。課題としては、男子の立ち幅とび、女子の20mシャトルランが、大阪市・全校平均の記録を明らかに下回っている。また、アンケートにおいて、「体育の授業は楽しいですか」の質問に「楽しい」と答えた割合は、男子81.3%、女子90%で、大阪市・全国平均を上回った。また「どんな時に体育の授業が楽しいと感じますか」の質問に「できなかったことができるようになったとき」と答えたのが男子93.3%、女子が100%で多くの児童が達成感を味わうことができています。

●取組の成果と課題／

ここ数年の結果を見ると、体力合計点をはじめ、全体的に全国や大阪市平均を下回る種目が多い。ただ、体育の授業は楽しいと答える児童が年々多くはなっている。主体的に自分で考えて運動に取り組むことができるようになってきている証拠である。記録が大阪市や全国平均を下回っている、立ち幅とびや20mシャトルランについて、縄とびや持久走に力を入れて取り組んでいくことも一つの方法ではあるが、児童一人ひとりがやりたいことと自分の課題を考えて、主体的に楽しく、前向きに運動に取り組むことが大事であると考え。そのための手立てを今後も考えていく必要がある。

学校の特徴

長原タイム

- 子どもにつけたい「3つの力」を高める学び
- 「個別最適化学び」「協働的な学び」の実現（自由進度学習・探究学習・縦割り活動など）
- 主体的・自律的に行われる教師の学び
- 変化を前向きに受けとめて、常に学び続ける教師の学び
- 教師一人ひとりが当事者意識を持って、学びの楽しさを追究する学び

学校・家庭・地域がひとつになるための取り組み

長原チャンネル

長原フェスティバル

長原ファーム

いらっしやい長原の先生

長原レンジャー

哲学対話

長原こども記者

長原こども NAVI

長原わいわいフェスタ

長原ふれあい広場

長原きまぐれ Radio

長原オープンスクール

40分授業午前5時間制&複数担当制&教科担当制

午前は教科学習を、午後からは探究学習をと学びのモードを切り替え、学習時間を設定しています。学級を2人で担当したり、低学年から教科担当制を取り入れたりして、様々な大人が子どもたちに関わることでできる体制をつくります。

これらの目的は、「子どもから学ぶ大人」「すべての子どもを見守る大人」「できないことは人の力を活用する大人」の実現です。多くの大人が子どもたちに関わることで、様々な視点から子どもたちを見ることができ、子どもにとっての安心感を生むことができます。また、教員にとっても一人で抱え込むことなく、チームで子どもに関わることでともに、教科指導の負担感も減り、働き方改革にもつながります。

平野支援学校との交流

平野支援学校と連携し、両校の子ども達の様々な交流を深めるとともに、障がいに対する理解を深め、互いの違いを認め合い、命を大切に思いやりのある豊かな心情の育成に努めています。



校長先生からのメッセージ

本校のスローガンは「みんながつくる みんなの学校 長原小」そして、「みんな」とは「自分」です。「子ども」「サポーター（保護者）」「教職員」「地域」など、学校にかかわるすべての人のことです。「子どもにとっては、自分が通いたい学校を自分がつくる」「サポーターにとっては、自分の子どもを通わせたい学校を自分がつくる」「教職員にとっては、自分が働きたい学校を自分がつくる」「地域にとっては、地域の宝である子どもが通う地域の学校を応援したくなる学校を自分がつくる」「子どもも大人もいきいきしている学校」をめざして、教職員はひとつになって学校運営を進めていきます。ぜひ、子どもたちのために、ともに学校をつくっていきましょう。

校長 市場 達朗